植木病院だより

Vol.10
平成19年8月

発行所 〒861-0136 熊本県鹿本郡植木町岩野285-29
TEL096-273-2111 FAX096-272-2117 植木町国民健康保険 植木病院 発行人 鳥越 義継



Japan Council for Quality Health Care
日本医療機能評価機構

■ 診療体制の変更について

このたび常勤医師の減少に伴い、やむなく午後の総合外来と土曜日午前の外来診療を７月７日をもって休診とすることとなりました。

ご承知のように全国的に医師不足が叫ばれていますが、とりわけ自治体病院、中でも地域医療に携わる郡部、都市周辺部の中小病院に於いては極めて深刻なものがあります。目下、国においても「緊急臨時的医師派遣システム」など医師確保対策の検討がなされているところですが、現実的、即効的な解決にはほど遠い感があります。

こういった状況の中で、当院におきましても異動や退職に伴い常勤医師に不足を来たし、従来の診療体制を維持していくことが困難な状況となりました。

現在応援医師及び後任医師の確保に鋭意取り組んではおりますが極めて厳しい状況にあります。

これを踏まえて院内の診療体制検討委員会にて今後の体制を検討いたしました結果、当分の間午後の総合外来と土曜日午前の外来診療を休診せざるを得ないという結論になりました。

患者さんを始め病院をご利用の皆様方には大変御迷惑をお掛けいたしますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

病院長 鳥越 義継

部署訪問

今回は**栄養科**を紹介します。







当栄養科の基本理念は「栄養管理により患者様の治療、健康回復をはかり、個人の食生活・嗜好を大事にした安全な食事作り」とし、患者様の栄養アセスメント・栄養情報の提供等に取り組み、個々の病状・嗜好に応じ、対応しております。

又、医師・看護師・コメディカルとの連携を図り栄養管理計画書を作成し、栄養評価などの栄養管理を行い、病状の改善・治療・治癒に貢献することを目指しています。

スタッフは管理栄養士１名、（委託　管理栄養士１名、臨時栄養士1名、調理師１０名）です。週３回の選択メニュー、個別対応としましては、各種コメントにより対応（入院時に調査）し、年４回の嗜好調査を行い、結果を献立に反映させております。嗜好調査の結果、患者様の食事の満足度（味、適温、盛りつけなど）は毎回80%以上と高い支持を得ています。

栄養指導は入院、外来とも医師の指示を受け、１名の管理栄養士で対応しています。病態、食歴に応じて個別指導をしており、近年、生活習慣病（糖尿病、高血圧、高脂血症）の指導件数が急激に伸びております。その他人間ドックの栄養指導、糖尿病教室での集団栄養指導を行い、患者様の健康回復にお役に立てるよう力を入れております。

又、今年度から当院では、栄養サポートチーム（NST）の稼動施設認定を受けました。栄養に対する意識が高まる中、期待に添える食事の提供を目指し、栄養科一同がんばっていきたいと思います。

体に栄養・心にも栄養を・・・。

TOPICS

「救急蘇生法（ＢＬＳ）講習」が開催されました。

全職員を対象とし、日本赤十字社より講師を招いて、全5回の開催予定の内、4月5月と前期の講習会が終了。現在34名が受講しました。学ぶ目的として、事故を防止し、緊急時に必要な手当が出来るように救急法の正しい知識と技術を身につけ、これを実践することです。日赤の基礎講習は、平成17年の国際蘇生連絡委員会の指針を受け、わが国における「救急蘇生法の指針」が発行され、これに沿って市民の誰もが実践しやすい方法が採用されています。赤十字救急法とは、病気やけがや災害から自分自身を守り、けが人や急病人を正しく救助し、医師又は救急隊などに引き継ぐまでの救命手当及び応急手当のことをいいます。

今回、医療従事者というわけでなく、市民として誰もが行える一次救命処置　①心肺蘇生法（気道確保、人工呼吸、心臓マッサージ）　②ＡＥＤ（自動体外式除細動器）を用いた除細動　③気道異物の除去を中心に行いました。

講習は、前半はテキストに沿って行われ、後半は5グループ（3～4人）程度に分かれての実習でした。お互いに保温や下向きから仰向けにする方法・回復体位のとり方を実習しました。一次救命処置では、人形モデルを使用し人工呼吸や心臓マッサージの実践を行い、気道確保の重要性や息を吐く強さ・胸骨圧迫の強さ速さのポイントが理解できました。また、一連の流れを手順に沿って実践しました。＜発見→意識の確認→協力者を求める→119番とＡＥＤの依頼→気道確保→呼吸の確認→人工呼吸2回→胸骨圧迫30回と人工呼吸2回を繰り返す→ＡＥＤ到着→救急隊到着にて引き継ぐ＞

参加した各グループは意欲的に実習でき、一生懸命さが伝わりました。講習最後には、筆記試験にて80%取れたら合格で、後日修了書が送られてきました。この講習を受けることで、病院職員として患者様の急変時の対応がスムーズに行え、全てのスタッフにおいて連携協力していけるよう今後も努力し、質の向上に努めていきたいと思っています。

診療情報便り

心房細動と脳梗塞――その予防

植木町国民健康保険　植木病院　循環器科科長　定永恒明



某野球監督が脳梗塞により突然会話が困難となり、残念ながら職務を遂行できなくなったことはまだ記憶に新しいことと思います。原因は心房細動という不整脈でした。心房細動を有する患者は年齢とともに増加し、70歳をこえると人口の5%に達します。また、心房細動があると年間約5%もの患者に脳梗塞が発症するとされています。年間5%といえばそう多くはないと感じるかもしれませんが、単純に計算するとこの先10年間には2人に1人が脳梗塞を発症することになります。しかも、これは確率の問題であって、心房細動があればたとえ今日元気であっても明日には脳梗塞が発症するかもしれない危険な状況にあります。

心房細動では心房が"けいれん"した状態となっています。この状態ではすぐに心臓が止まってしまうわけではありませんが心房はほとんど動いていないため心房内に血栓ができやすくなってしまいます。血栓がはがれると全身の様々な臓器に血栓塞栓症をおこしてしまいますが、頭の血管につまった場合が脳塞栓症です。幸い医学の進歩により血栓をできにくくするワルファリンという薬が開発されました。ワルファリンをうまく使用することで、脳卒中の発症率を年間5%から1.5-2%程度までに著明に減少させることができました。ただし、ワルファリンには避けることができない副作用もあります。それは、出血の危険性が高くなることです。血液を固まりにくくする薬ですから出血しやすくなるのは当然です。胃潰瘍や痔があれば出血をおこす可能性はふえるでしょうし、転倒などをすれば頭蓋内の出血もおこしかねない状況になります。そのため、投与量には細心の注意をはらう必要があります。しかも食事内容などで薬の効果が変わる場合があるため、定期的に血液検査を行いこまめに投与量を変更する必要があります。このように面倒な薬ではありますが、高齢になればなるほど脳梗塞の発症率は増加するため、75歳以上の高齢者でも心房細動であれば積極的にワルファリンを内服することが望まれます。

心房細動自体の悪影響に関しては、無症状で経過することもありますが、激しい動悸をきたしたり、時として心不全をきたしたりすることがあります。原則的には規則正しい洞調律の脈に戻すことが望ましいと考えられますが、そのためには抗不整脈治療が必要なことが多く、時には電気的除細動が必要な場合もあります。実際、そのような治療を行って一時的に洞調律に戻しても再発してしまうことも少なくありません。最近ではカテーテルによる高周波通電（カテーテルアブレーション）による治療も行われるようになりました。根治術になり得る有望な治療法ですが、必ずしも容易ではなく、現時点では薬剤抵抗性で症状の強い心房細動患者に適応が限られています。一方、最近では心房細動を無理に洞調律に戻さず、心拍数が速くなり過ぎないよう調整する(レートコントロール)方が望ましいとの報告もあります。洞調律を抗不整脈薬等で維持するべきか、それともレートコントロールでかまわないのかどうかは、個々の患者さんの生活のあり方(Quality of Life)によります。脈がみだれて心配な場合は不整脈が専門の当院の循環器医師にぜひ相談してください。個々の患者さんにあったベストの治療法を考えていきたいと思っております。

外来からのご案内

◇健診科
①人間ドック（オプション有ります。）
●日帰りコース　●通院2日コース　●1泊2日コース
②生活習慣病予防健診
③企業健診
④乳がん検診　触診とマンモグラフィー（町の助成金有り）
（お問い合わせは、国保植木病院
医事係　TEL096-273-2111内線101）

◇健康教室：3ヶ月に1回（5月・8月・11月・2月に実施予定）
内　容：講演会
場　所：国保植木病院　2階会議室

◇糖尿病教室：毎月第1・2・3木曜日　国保植木病院2階会議室
（お問い合わせは、国保植木病院　外来内科
TEL096-273-2111（内線140）

外来診療のご案内

（平成19年7月1日現在）

診療科＼曜日	午前午後	診察室	月	火	水	木	金
内科	午前	第一診察室	勇	勇	勇	勇	勇
		第二診察室	山城	山城	山城	山城	
循環器科		循環器診察室	定永	鶴田	定永	鶴田	定永
外科		外科診察室	鳥越	久米	鳥越	久米	髙橋
整形外科		整形診察室	紫垣	紫垣	紫垣	紫垣	紫垣
脳神経外科		脳外科診察室				担当医	
肝炎外来	午後	脳外科診察室			合志		

※ **平日の午後及び土曜日は休診となります。**
※ 脳神経外科は第2・第4木曜日の午前中のみです。
※ 当院では、再診予約制を取っております。
診察時に次回予約を行って下さい。
また、予約変更の電話については、午後にお願いします。

受付時間：平　日／午前８：30 ～ 午前 11：30
診 察 日：月曜日 ～ 金曜日
休 診 日：平日(月～金)の午後
土曜日・日曜日及び祝祭日
年末年始（12月29日から翌年1月3日）
※ただし、急患の方は、これに限らず対応致します。

地域医療連携室のお知らせ

当院では、各医療機関との連携を推進しております。その窓口として「地域医療連携室」を平成14年12月に開設しましたので、ご活用下さいますようお願い申し上げます。

■地域医療連携室
担当者：前田 由美
電　話：TEL096−273−2111（代表）
096−272−0854（直通）
FAX096−272−0854（直通）



植木町国民健康保険
植木病院位置図

交通アクセス

九州産交バス
「町立病院･かがやき館前」バス停下車
熊本ー山鹿線をご利用の方は、
「五霊中学校前」バス停下車徒歩5分

乗　用　車
・熊本市中心部より30分
・山鹿市中心部より30分
・九州自動車道　植木インターから10分

編集後記

以前から異常気象については問題提起されていたところですが、昨今はまさに気候が変わってきつつあるなと実感することが皆様におかれても多いのではないでしょうか。今年も６月に梅雨入りしているにもかかわらず雨が降らないね、地域によっては水不足が懸念されています。

今後、地球の環境はどうなっていくのでしょうか。映画『デイ・アフター・トゥモロー』のように温暖化を原因とする急激な気象の変化によって、一気に氷河期になってしまったらと考えるとゾッとします（なにせ寒がりなもので）。

ところで、６月といえば、ジューンブライト。私もたくさんの結婚式のお招きにあずかりました。結婚式にしても、やはりその地域ごとに特色があるもので、例えば沖縄では親族から近所の方まで自分がお世話になった人をあたりかまわず招待してしまうので、私が参加した式の招待客はなんと370人でした。ちょっとした芸能人の式なみです（笑）その上、式中は新郎も加わっての余興の連続でほんとに招待客皆を笑顔にさせてくれる式で、この上なく楽しくホットな時間を過ごすことができました。

ただ、沖縄から帰って財布の中を確認した私はリアルにゾッとしました・・・。

さいころK